

群 教 七	G02 - 03
	平18. 234集

# 社会的思考力をより高める指導の工夫

## — 課題解決的な学習における小集団の学び合いを通して —

特別研修員 上原 伸吾 (高崎市立中尾中学校)

### 《研究の概要》

本研究は、中学校社会科の地理的分野において、課題解決的な学習における小集団の学び合いを通して、社会的思考力を高めることを目指したものである。生徒は、対象とする社会的事象と身近な具体例の事象を比較して学習課題を設定し、予想したことを基に見通しをもって追究する。小集団による学び合いを通して課題解決的な学習における調べ方の視点や方法を身に付け、社会的思考力を高める活動を行った。

### ○ はじめに

現在の学校教育では、社会の変化に対応できる生きる力の育成が重要とされ、自ら考えて学習したり活動したりすることが求められている。

社会科の学習では、過去において知識・理解が重視される傾向にあった。今でも社会科は“覚えること”と考える生徒は少なくない。社会科においては、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、資料に基づいて考察する態度を身に付け、一面的ではなく、多面的・多角的に考察することを身に付けることが大切である。実際には、既存の知識を生かして学習課題を見いだしたり資料を活用して解決したりしていくことが重要であり、その中核となる力が社会的思考力と考える。

本校の生徒は、学習した内容の基礎・基本については比較的よく身に付けられている。しかし、社会科の学習に対して興味・関心を持つことや積極的に学習することはできていない。また、資料から社会的事象の変化や背景について考察したり資料を多面的・多角的に考察することができる生徒は少ない。課題解決学習における調べ方の視点や方法を身に付けることで社会的思考力を高めていく必要を感じる。

社会科における学習では、社会的事象が「どうしてそうなる(なった)のか」と考える場合、一つの要因や背景で成り立つのではなく複数の要因があり、そこにさまざまな視点からの背景が成り立っている。そこで、本研究では日本の諸地域を比較し関連付けて考察し、各地の地域の特徴には地方的特殊性と一般的共通性があることを学び、社会的思考力を高めたいと考えた。これらの

ことから、個人で追究することと友達との意見交換による学び合いを通すことで、確実な課題解決力や社会的思考力が高められると考え、本研究を設定した。

### I 研究の概要

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 社会的思考力をより高めるとは

社会的思考力とは、課題解決の場面において事実と関連付けた調査や活動を行い自分なりに結論を導き出し、社会的事象の意味や役割をつかむことである。

より高めるとは、交流を通して学習課題の解決に向けて調査した内容や既習事項から事実を関連させて思考し、より多面的・多角的に社会的事象の意味や役割をつかむことであるととらえた。

#### 2 研究の内容及び方法

##### (1) 研究の内容

##### ① 研究の手だて

ア 「課題の設定」の過程において、対象とする社会的事象と身近な具体例から取り上げた事象を比較することで特色や問題点などについての視点を持ち、学習課題を設定できるようにする。

イ 「追究する」過程において、生活経験や既習事項から予想したことを基に見通しをもつことで、社会的事象に共通する特色や問題点を見いだす追究活動ができるようにする。

ウ 「深める」過程において、小集団による学

び合いで複数の具体例を比較し関連付ける活動を行うことで、地域的特色を追究する視点や方法を身に付け、社会的思考力が高められるようにする。

## ②社会的思考力を高める学び合いとは

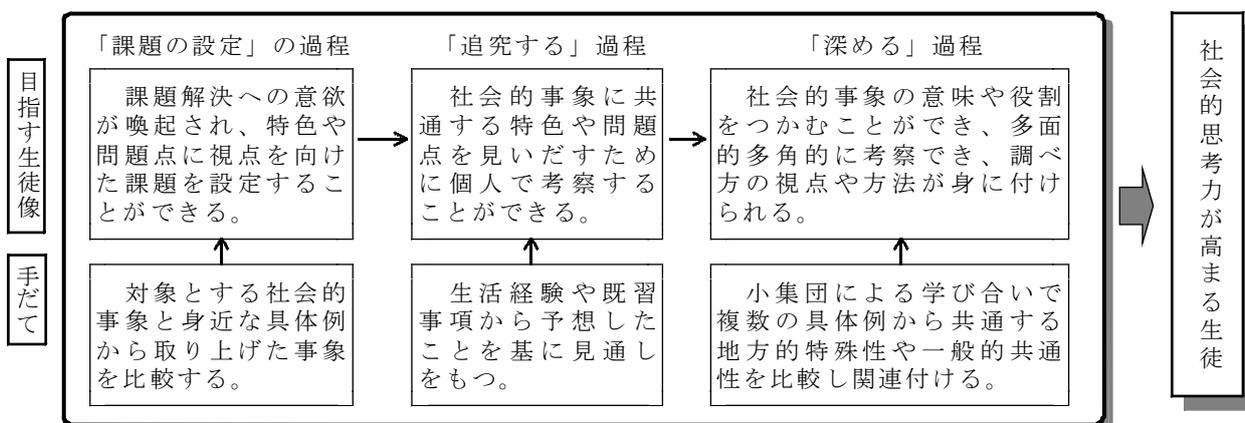
課題解決的な学習における学び合いとは、互いの情報を交換したり意見交換を行ったりすることで自分の学習課題の解決に向けての追究が深まることであり、また、友達との意見交換から自分の考えも深めることである。学び合いにおける小集

団の活動は、4～5人程度の小集団であれば自分の考えや疑問点などを話しやすい人数構成であり、お互いの思考を高めていくには適度な人数と考える。

本単元では、学び合いにより調べ方の視点や方法を身に付け、日本の諸地域を比較し関連付けて考察し、過密・過疎地域の特色には「一般的共通性」と「地方的特殊性」があることを学習する。

これらのことから、学び合いを通してより多面的・多角的に社会的事象の意味や役割をつかむことができ、社会的思考力がより高まると考える。

## ③ 研究の構想図



## (2) 研究の方法

### ① 実践の計画

対象	高崎市立中尾中学校 2年1組(39名)
単元名	日本の人口の特色をとらえよう
実践期間	平成18年11月上旬～中旬 (全7時間)

### ② 抽出生徒

A男	与えられた学習課題は最後まで仕上げようとよく努力している。追究したことを発表はできるが、自信がないのか挙手は少ない。学び合い活動を通して一般的共通性などに気付かせて考察させ、学び合いによる学習の成果を味わわせたい。
B女	課題解決的な学習では、課題解決まである程度できる。自分の調べたことを積極的に表現することには苦手意識がある。小集団による学び合いを通して自分が追究したことを表現し、友達の意見を聞いて調べ方の視点や方法を理解し、社会的思考力を高めたい。

### (3) 単元の考察と目標、評価規準

目標	日本の国土の特色を人口を視点とし、課題解決における学習計画の作成により見通しをもって学習を進め、世界と日本を比較したり、日本国内の地域差を調べたりすることによりその特色をつかむ。			
評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
	世界や日本の人口の変化に関心をもち、分	世界の人口分布や増加の偏りなど、日本との比較を	世界や日本の人口分布の特色や変化について統	世界や日本の人口の特色について理解

布図やグラフを使い意欲的に学習課題を追究しようとしている。	もとに考察している。日本の人口における高齢化の諸問題について考察している。	計資料から考察し、資料を効果的に活用している。	し、その知識を身に付けている。
-------------------------------	---------------------------------------	-------------------------	-----------------

(4) 指導計画 (全7時間)

過程	時間	主な学習活動・内容	指導上の支援及び留意点	形態	評価項目【観点】(評価方法)
課題の設定	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の人口分布と変化について調査する。</li> <li>○世界の人口分布が地域的なかたよりがあること、人口増加の様子や傾向を理解する。</li> <li>○日本の人口の変化について調査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図や統計資料から変化の傾向を読み取らせる。</li> <li>○「世界の人口分布」「世界の人口の増加」の資料を書き込み、作成する作業を通して、世界の人口に関する傾向をつかめるようにする。</li> <li>○「日本の人口ピラミッドの変化と予測」から人口の変化を読み取らせる。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の作成を通して世界の人口の様子の傾向をつかもうとしている。</li> <li>【技能・表現】(ワークシート)</li> <li>○世界の人口と日本の人口の様子について理解している。</li> <li>【知識・理解】(ワークシート)</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の人口の特徴を他国と比較する、日本の人口の高齢化や少子化への問題意識と人口に関する諸問題について理解する。</li> <li>○日本の人口分布の分布と人口の移動をとらえる。</li> <li>○日本の人口の特色を概観し、課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「各国の人口ピラミッド」から日本の人口ピラミッドとの共通点や相違点を見付け、どんな特徴があり人口が抱える課題があるかを読み取らせる。</li> <li>○日本の人口の高齢化や少子化についてグラフを通して理解できるようにする。</li> <li>○「日本の人口密度」から人口の分布・人口密度の分布の概略をつかませる。</li> <li>○「過密地域と過疎地域の人口密度」から課題を設定できるようにする。</li> <li>○身近な具体例として高崎市の人口密度と比較し、特色や問題点に視点を向ける。</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の人口の様子について理解している。</li> <li>【知識・理解】(ワークシート)</li> <li>○日本の人口の特色から過密・過疎地域について課題を設定している。</li> <li>【関心・意欲】(観察・ワークシート)</li> </ul>
<b>人口が過密な地域と過疎の地域の特色や問題点を調べよう。</b>					
追究する	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口が過密な地域での特色や問題点を予想し、追究する。</li> <li>○過密地域の特色や問題点はどんなことで、どのような取り組みをしているか追究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口が過密な地域における予想される特色や問題点を具体的な生活場所の様子から見付けて、予想させる。</li> <li>○自分の追究内容を次時においてしっかりと発表できるように準備を進めさせる。</li> </ul>	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過密地域での特色や問題点を予想し、追究している。</li> <li>【思考・判断】(観察・ワークシート)</li> <li>○全国の過密地域の資料から特色や問題点を見付けている。</li> <li>【技能・表現】(観察・ワークシート)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○追究した内容について小集団で発表し、意見交換し学び合う。</li> <li>○複数の過密地域の様子から共通する特色や問題点を学級全体で意見交換し、学び合いの場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過密地域のもつよさや問題点を全国の複数の都市の「人口の移動」「産業別人口グラフ」等から、比較・関連させて特徴を読み取らせる。</li> <li>○意見を発表することで、追究内容を振り返り、友達の見聞を聞くことで自分とは違う社会的事象に関する視点から社会的思考力をより高める。</li> <li>○学習課題が解決できたか、適切な追究内容であるかを振り返る。修正や変更が必要な場合には、過疎地域の課題追究のときに行う。</li> </ul>	小集団 ↓ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過密地域の特色や問題点を意見交換しながら考察している。</li> <li>【思考・判断】(意見交換・ワークシート)</li> <li>○日本の過密地域の特色や問題点について複数の事例から資料などを通して考察している。</li> <li>【技能・表現】(ワークシート)</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口が過疎の地域での特色や問題点を予想し、追究する。</li> <li>○複数の過疎地域の問題点はどんなことで、どのような取り組みをしているか追究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口が過疎の地域における予想される特色や問題点を具体的な生活場所の様子から見付けさせる。</li> <li>○自分の追究内容を次時においてしっかりと発表できるように準備を進めさせておき、過密地域を追究たときの反省が生かせるようにする。</li> </ul>	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過疎地域での特色や問題点を予想し、追究している。</li> <li>【思考・判断】(観察・ワークシート)</li> <li>○全国の複数の過疎地域の資料から特色を見付けている。</li> <li>【技能・表現】(観察・ワークシート)</li> </ul>

手 だ て ウ	<p>6</p> <p>○追究した内容について小集団で発表し、意見交換し学び合う。</p> <p>○複数の過疎地域の様子から共通する特色や問題点を学級全体で意見交換し、学び合いの場を設定する。</p>	<p>○過疎地域のもつよさや問題点を全国の複数の都市の「人口の移動」「産業別人口グラフ」などから、複数の地域を比較・関連させて特徴を読み取らせる。</p> <p>○意見を発表することで、追究内容を振り返らせ、友達の意見を聞くことで自分とは違う社会的事象に関する視点に気付かせ社会的思考力をより高める。</p> <p>○学習課題が解決できたか、適切な追究内容であるかを振り返らせる。</p>	<p>小 集 団 ↓ 一 斉</p> <p>○過疎地域の特色や問題点を意見交換しながら考察している。</p> <p><b>【思考・判断】</b> (意見交換・ワークシート)</p> <p>○日本の過疎地域の特色や問題点について複数の事例から資料などを通して考察している。</p> <p><b>【技能・表現】</b>(ワークシート)</p>
深 め る	<p>7</p> <p>○日本の過密地域・過疎地域に共通する特色や問題点をまとめ、その対策の取り組みについて分かったことをまとめる。</p> <p>○過密な大都市と過疎地域を関連付け、生産年齢人口に注目して年齢構成の地域差の特徴をつかむ。</p>	<p>○前時までの学び合いから、過密地域と過疎地域の生活の様子から共通点を見つけ、日本の過密・過疎の特徴をとらえさせる。</p> <p>○日本の過密地域は三大都市圏、地方中心都市であること、過疎地域は山間地域や離島を中心に全国に分布していることをとらえさせる。</p> <p>○全国の過密地域が過疎地域からの人口の移動によることを理解できるように生産年齢人口とその変化に着目させる。</p>	<p>一 斉</p> <p>○過密地域と過疎地域の対策や取り組みを分かりやすくまとめている。</p> <p><b>【関心・意欲】</b>(ワークシート)</p> <p>○生産年齢人口の資料から日本の地域差についてまとめている。</p> <p><b>【技能・表現】</b>(ワークシート)</p>

## II 実践の概要

### 1 「課題の設定」の過程において、対象とする社会的事象と身近な具体例から取り上げた事象を比較する活動

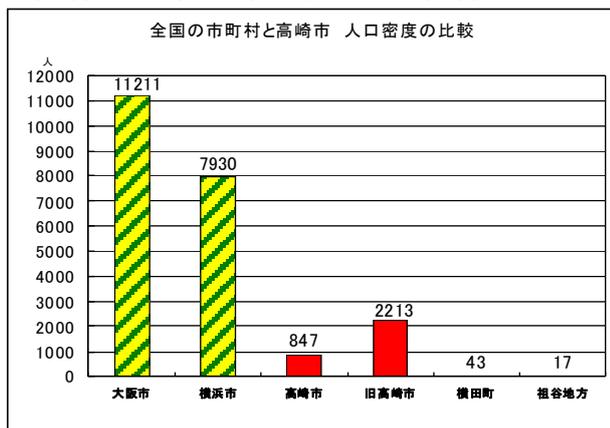
「課題の設定」の過程において、自分たちが生活している高崎市と日本の各地の人口密度を比較することで過密地域や過疎地域の特色や問題点をつかみ、学習課題を設定できると考えた。これは、人口密度は数字だけで比較できる資料であるが、生徒にとって身近な地域の様子と比較することでより理解が深まると考えたからである。本単元では具体的な事例として、教科書で扱っている地域である大阪市・横浜市を過密地域として、島根県横田町・徳島県祖谷地方を過疎地域として取り上

げることとした(資料1)。

2ヶ月ほど前に過密地域の東京へ校外学習で全員が出かけた経験をもつ。高層ビルの見学や地下鉄の利用など直接過密地域の生活の様子を体感してきた。単元で取り上げている大阪市や横浜市を訪れたことがある生徒となるとその数は少ない。過疎地域では群馬県内の山間部をイメージしている程度で、実際にはそれ以上に人口密度が低い地域があることを知らない。高崎市の人口密度が提示されないと全国と比べ、高い方か低い方か分からないが、高崎市が提示されることで過密地域でも過疎地域でもないことが分かる。また、自分が生活する場所の過密の状態や傾向がよくつかめ、理解できたようである。

A男は、資料1の考察から「大阪や横浜のような過密地域では人口密度が高く、色々な問題があると思った。」と記述し、過密地域の特色や問題点へと視点が向いていることが分かる。この学習課題においては、「自分の住んでいるところと他のところを比べながら調べられるのでよかった。」と感想を述べ、身近な地域と比較することのよさを強く感じたようではないが高崎市の人口密度があるグラフとないグラフを提示すると、「違いがよりよく分かるし、高崎市の人口密度についても興味をもてた。」と記述していた。B女は、資料1の考察から「過疎地域は人口が少なく、人口密度も低く、生活していくのが大変なような気がす

資料1 全国の市町村 人口密度



る。」と記述し、過疎地域の暮らしぶりがどんな様子かに視点を向けていた。この学習課題においては、「過疎と過密だけで、その間の所が高崎市なので高崎市を通して見ると分かりやすかった。自分の市と比較できるから高崎の人口密度がある方がよい。」と身近な地域との比較やそのよさを強く感じたようである。

生徒は、「高崎市との比較によって、過密地域が予想をはるかに超えて、これほど人口密度の高い状態ということ。過疎地域が山地であるとは思ったが、人口密度でみるとこんなに少ないことがよくわかった。」と述べ、実際に生活している都市との比較ができた。また、「過密地域だけ、過疎地域だけをグラフにしてもなかなかはっきりしないけど、自分たちが住む高崎市と比べることで

そのようすがよくわかり、結論がはっきりとなると思う。」と述べ、高崎市の人口密度が提示されたことで、より問題点の把握やその特色が理解できた。これらから、本単元の学習課題「人口が、過密地域と過疎地域の特色や問題点を調べよう」を設定することができた。

## 2 「追究する」過程において、生活経験や既習事項から予想したことを基に見通しをもつ活動

「追究する」過程において、まず生徒の生活経験や既習事項から予想した。見通し1を基に高崎市の人口密度との比較から過密地域の大阪市は、高崎市13倍もの人口密度があることを参考とした。予想は、何を根拠に見通しを立てたかを明らかにした（資料2. 3）。

### 資料2 A男の予想と根拠

2. 人口のグラフ④、⑤をみて記入してください。	
④過密地域のこと 1の予想で書いたこと	何を根拠に予想したか
(建物が多い) →	(実際に見た)
(地価が高い) →	(元ビビや一年時の勉強)
(田畑などが少ない) →	(本、パソコンなどで見た)
( ) →	( )
⑤過疎地域のこと 1の予想で書いたこと	何を根拠に予想したか
(田舎) →	(実際に見た)
(地価が安い) →	(一年時の勉強した)
(作物などを育てる) →	(パソコンで見た)
(田畑が多い) →	(本で見た)

### 資料3 B女の予想と根拠

2. 人口のグラフ④、⑤をみて記入してください。	
④過密地域のこと 1の予想で書いたこと	何を根拠に予想したか
(大きな建物がある) →	(東京などの人口が多いところは、大きなビルが多いから)
(大きな馬場がある) →	(東京がでているニュースを見ると、馬場が大きいところを見たから)
( ) →	( )
⑤過疎地域のこと 1の予想で書いたこと	何を根拠に予想したか
(建物が少ない) →	(高崎市のなかでも、建物が少なく、田んぼばかりだった)
(田んぼが多い) →	(テレビで見ると、田んぼが多かったのを見たから)
(学校の人数が少) →	(よくテレビで、5、6人しか生徒がいないのを見たから)

全体的には、9割程度が過密地域、過疎地域の特色や問題点を具体的な生活場所の様子から予想できた。更には過密地域では、特色として「交通網が発達している」「高層ビルが多い」「昼は人口が多く、夜は少ない」問題点として「道路が渋滞している」「建物が密集している」「環境問題が起こっている」と予想した。過疎地域では、特色として「物価が安い」「自然が豊か」「農業が盛ん」、問題点として「高齢者が多い」「人口が減少している」「山の地形で住みにくそう」と予

想した。中には、予想が幅広く、そして本質に迫る内容になっていた生徒が5%いた。過疎地域については、生活経験のみならず、前時までに学習した既習事項である過密地域の学習から「過密地域と反対のような様子ではないか」と予想している生徒もいた。

A男は、資料2のように過密地域では実際に体験したことや既習事項を生かして考察し、過密地域では「建物が多い、地価が高い、田畑などが少ない」過疎地域では「田舎、地価が安い、農作物

などを作っている、田畑が多い」と予想が立てられている。資料2以外に聞き取り調査を実施したところ、「過疎地域は人口が少なく、田舎では田畑が多くあり農作物を作っている農家があることを調べたことがある」ということだった。B女は、資料3のように過密・過疎地域共に既習事項よりはテレビニュースなどから見たり得たりした情報について想起して考察し、過密地域では「大きな建物がある、大きな駅がある」過疎地域では「建物が少ない、田んぼが多い、学校の人数が少数」と予想を立てている。

学習課題を解決するための予想を立てることと根拠をもつ上で指導上留意したことは、1年時に学習した都道府県調べの東京都と山形県についての学習との関連を図ったことである。東京都では、日本屈指の過密地域ということで土地利用の様子、市街地の広がりや東京大都市圏について学習した。山形県では、統計資料から県の特徴について、山形の地形的な特色と農業の関係について学習した。両都県の共通した学習内容として、人口、面積、人口密度など基礎となる資料とともに過密や過疎に関連する資料と学習内容が含まれていた。このため、学習した内容から過密・過疎地域の様子を予想することが比較的よくできた。

予想を基に個人が追究した内容を過疎地域を例に見ると、4人の班で資料4のような追究がなされた。それぞれの特色・問題点と過疎や高齢化に対する取り組みを追究し考察できた。また、同じような追究内容は意見交換をしてまとめたり修正したりでき、この場面においても社会的思考力の高まりが見られた(資料4)。

#### 資料4 小集団での発表した内容

##### 島根県横田町の特色や問題点

- ・農業や林業が盛んな町で豊かな自然に囲まれて人々が生活している。
- ・中国山地の盆地に位置し、農業、林業が盛ん。
- ・高度経済成長期に都市への流通が続いたため、1万3千を上回っていたが、現在は約8000に減少。
- ・少子化が進み、学校の廃止もある。
- ・小学校に通っている人が1960年より2001年の方が圧倒的に減っている。(生徒数の減少)

##### 過疎や高齢化に対する取り組み

- ・移住してきた人たちには、農業の技術を教えたり、就職や住宅を紹介している。
- ・インターネットなどで町への移住を呼びかけている。
- ・過疎を少しでも解消するために、インターネットなどを使って町への移住を呼びかけている。

- ・移住してきた人々に農業の技術を教えたり就職や住宅を紹介している。
- ・高齢者のためにデイサービス事業を行う。

##### 徳島県祖谷地方の特色や問題点

- ・西祖谷山村では、昔は村の人口が6000を上回っていた。
- ・徳島県祖谷地方では豊かな自然に囲まれて人々が生活しています。
- ・林業や農業が衰退。
- ・西祖谷山村には村民を大きく上回る観光客が訪れる。
- ・多くの人達が都市に働く場所を求めて出て行った。
- ・山間部なので集落は斜面にある。
- ・お年寄りばかりの集落があり、バスの便数が少なく病院などに行くのに困っている。
- ・四国山地には西祖谷山村を始めとして一人または夫婦のみで暮らすお年寄りばかりの集落がある。

##### 過疎や高齢化に対する取り組み

- ・観光施設(労働場所)で若者の流出に歯止め。
- ・村営温泉やかずら橋の観光施設で働く機会をつくることで若者の流出に歯止めをかけようとしている。
- ・観光施設で働く機会をつくることで若者の流出に歯止めをかけようとしている。
- ・観光産業による村の活性化。
- ・村では、観光産業によって村の活性化を図る。
- ・外出できない高齢者の身の回りの世話や買い物をする訪問介護と訪問看護が行われている。

### 3 「深める」過程において、小集団による学び合いで複数の具体例を比較し関連付ける活動

「深める」過程において、各個人が追究した過密地域や過疎地域の特色や問題点一つにつき付箋紙1枚に記入して発表した。これは、自分が追究した内容を確認できるというよさがあり、意見交換がスムーズになされると考える。これにより、考察した内容が充実することや調べ方の視点や方法を学ぶことができ、社会的思考力が高まっている。

#### 資料5 追究した内容の発表



く。また、普段はなかなか発表することができない生徒や発表を苦手とする生徒には、有効であるとする。小集団による班編制は、4人を原則とし意見を発表しやすく意見交換しやすい雰囲気であると考える（資料5）。

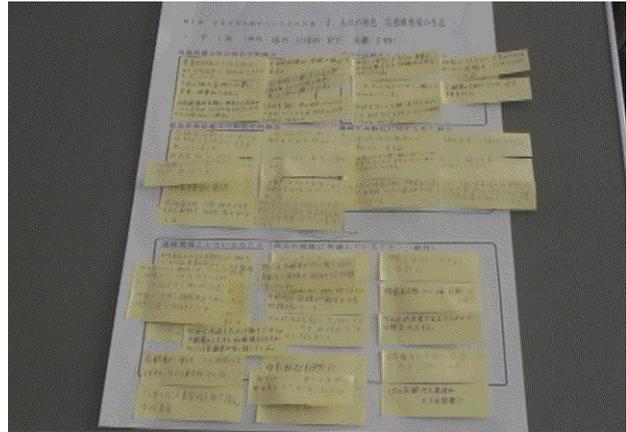
A男は、学び合いから過密地域の一般的共通性として、「朝夕のラッシュが絶えない」「周辺地域から通勤・通学者が市内に集まっている」「住宅が不足する。公共施設の建設が追いつかないなど人々の生活に影響が生じた」「過密の対策として、大規模なニュータウンを開発した」と結論付け、過密地域としていえる特色・問題点を個人で追究することよりも明らかに社会的思考力を高め考察することができた。また、この学び合いを通して、「友達との交流で他地域のことを学べるのではっきりとした考えにまとめることができた。」と述べ、学び合いを通して自信を深められたようである。小集団ということでもいつもより積極的に発表する姿も見られた。B女は、「自分が調べてわかったことなどを班の人たちと意見を言い合うことがすごくよかった。自分が調べていないことなどがいくつかあったのでよい勉強になった。グラフや資料を見て調べていくことも大切ということが分かった。」と述べ、積極的に発表する姿は見られなかったが、友達と意見交換する学び合いを通して、調べ方の視点や方法を身に付けようと学習する姿が見られた（資料5）。

学び合いの結果、資料4の班では横田町や祖谷地方の地方的特殊性から、過疎地域としていえる一般的共通性を見いだすことができ、多面的・多角的に考察ができ、社会的思考力の高まりが見られた（資料6）。

**資料6 過疎地域としていえること（一般性）**

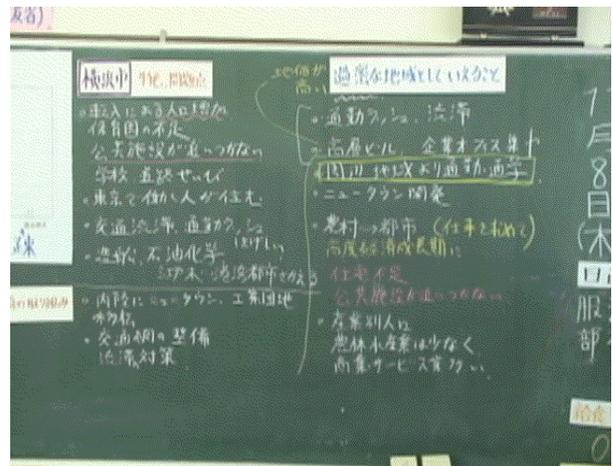
<b>特色・問題点</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町から流出した人は働き盛りの年齢層の人達とその家族だったため、町には高齢者が多く残っている。</li> <li>・高齢化と過疎が町の大きな問題となっている。</li> <li>・豊かな自然に囲まれている。</li> </ul>
<b>過疎・高齢化に対する取り組み</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増えたことでデイサービス事業や訪問介護など福祉事業を行っている。</li> <li>・国際交流や伝統産業を生かした特色ある地域づくり。</li> <li>・観光産業に力を入れ、都会から人を呼ぶ。働く場もつづっている。</li> </ul>

**資料7 小集団による学び合いの結果**



他には、「学び合いでは自分の気付かないところに気付いている人もいて、いろいろなことをより深く学ぶことができた。」「自分が調べた少ない情報では足りないので、他の人が調べたことを聞いて学ぶことはとても大切だと思った。」「次は、インターネットやその街に行って調べてみたいと思った。」「自分で調べた以外のことで友達が考えていることを付箋で書いたので分かった。いつも以上にみんなでまとめてすごくよく分かりました。」（資料7）。「自分が調べたところは付箋に12個も書くことができいつもより一生懸命できた。友達の意見を聞いて文章などからだけでなく、資料から読み取っていくことも大切と分かった。」「調べてみて予想が当たっていたり全然知らなかったりすることも分かり、よい勉強になった。他の地域を調べた人の意見を聞くと、自分が調べたところの特色や問題点とは違うことや共通な問題点もあることが分かった。お互いの意見交換もきちんとできたと思う。」等の感想が見られた（資料8）。

**資料8 学級全体での学び合いの結果**



このように、個人の追究で過密・過疎地域の特色や問題点を調べ、その後の小集団による学び合いによって意見の交換がなされたことで、資料から比較し関連付ける活動がしっかりと行えた。また、友達との意見交換と考察から調べ方の視点や方法についても学ぶことができた。この小集団での学び合いのような活動をまた取り組んでみたいと考えている生徒は、86%と好意的に受け止め、生徒にも評判がよかった。

### Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

#### 1 成果

- 学習課題を解決するには、まずいかに予想を立てられるかということが大切である。手だてイにおいて、過密地域の予想を深く考えずに表面的に予想した生徒が、反省の中で「次の過疎地域を調べるときには、もう少しよく考えて予想してから話し合いたい。」と述べているように、予想がしっかり思考できることが自分が追究していくことを確かめたり、友達の意見を取り入れていくことにつながる。このため、予想したことを意識させながら追究して発表し振り返ることは、課題解決的な学習においては社会的思考力を高める重要なポイントである。
- 社会的思考力を高めていくには、追究するためにふさわしい資料を教師が準備できるのか、また、生徒がその資料からどれだけ思考できるかが重要である。個人の追究では、なかなか高めることができない社会的思考力を1つの資料から複数人で考察することは自分の気付かない調べ方の視点や方法に気付くことができ、多面的・多角的な思考ができるようになる。学び合いを通して調べ方の視点や方法を理解し、少しずつ社会的事象の意味や役割をつかむことができるようになった。
- 課題解決的な学習において、学び合い活動を実施したことは、一斉授業ではなかなか積極的な取り組みができない生徒が、いつもより一生懸命活動していた。これは、小集団での学び合いのため必ず自分が発表する場面があることや自分の意見を聞いてもらえることが理由として考えられる。また、B女のように、自分が追究した内容に自信がもてない生徒にとっても友達との交流を通して、まとめたり新たな学習課題を見つけたりできるので自信を深められたと考える。

#### 2 課題

- 学び合いによってなされた、社会的思考力の高まりを確実に身に付け、意欲的に学習課題の解決に取り組んだり、発展的な課題を見つけていくような意欲の高まりがあることが求められる。そのためには、学び合いがしっかりとされるために生徒の表現力だけではなく、学習意欲や知識の違いを考慮した班編制を実施することが必要と考える。

(担当指導主事 峯岸 哲夫)

#### Web検索キーワード

【社会—中 地理的分野 社会的思考力  
学び合い 課題解決的な学習】

#### 〈参考文献〉

- ・北尾倫彦、祇園全祿 編集『観点別評価実践事例集』 図書文化 (2002)
- ・宇野彰人 編集代表 『どうする絶対評価』 東京法令出版 (2002)
- ・高山博之 編著 『学力向上をめざす発展的学習の展開』 東京法令出版 (2005)